

令和4年度 第1回 石狩市子ども・子育て会議 議事録

日時 令和4年8月29日(月) 10時00分～11時00分

場所 ふれあいの杜子ども館 文化活動室

議事次第

- (1) 開会
- (2) ふれあいの杜子ども館視察
- (3) いしかりファミリー・サポート・センターの現状と課題について
- (4) その他
- (5) 閉会

出席者

委員

吾 田 富士子	○	河 岸 由里子	○	坪 田 清 美	○
近 藤 宏	○	星 野 ゆかり	○	伊 藤 美由紀	○
新 田 大 志	○	金 子 浩 治	○	穴 田 めぐみ	×
山 中 亜弥子	○				

事務局

保健福祉部	次長 伊 藤 学 志
保健福祉部子ども政策課	(課長 伊 藤 学 志)、 主任 齊 藤 幸 古 、 主事 若 松 栞

傍聴者 0名

【1 開会】

○事務局（伊藤次長）

改めまして今年度の子ども・子育て会議を開催したいと思います。前回最後に開催したのは、令和2年2月ですから、このように集まるのは2年半ぶりとなりました。新型コロナウイルスでまだ懸念されておりますが、この間、2年度と3年度については、書面での開催ということで、皆様にはご理解とご協力いただきまして、改めてお礼を申し上げます。これまでの間も各事業者の皆様には、新型コロナウイルス感染症の安全対策に多大なご尽力とご協力をいただき、感謝申し上げます。

また、子育て中の方につきましては、先が見通せない不安の中で子育てをされてきたのかと推測しております。1日も早く終息して、安心して子育て子育てができるよう、日常が訪れことを切に願っておりますし、市としても引き続き感染対策、国や北海道と連携しながら収束に向けて対策を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議は、今任期の最後ということになっておりますので、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。

それでは会議の資料を改めて確認させていただきます。

まず議事次第、委員名簿、いしかりファミリー・サポート・センターについて3ページの資料となっております。

委員は11名の定員ですが、学校長が人事異動の関係で退職され欠員となっており、本日は、委員10名中9名出席で委員の半数以上が出席されており、子ども子育て会議条例第5条第2項の規定により本会議が成立していることをご報告します。

それでは、これより進行を会長にお願いいたします。

○吾田会長

みなさま貴重なお時間をいただきありがとうございます。新しい器ができて子どもたちがどんな風に使ってくれるかでその価値が出てくるかと思えます。外を見ると札幌の大通り公園のようなイメージがして、ここが石狩の皆さんの憩いの場となるのではないかと感じながら見させていただきました。

それでは、今日の議題は一つとその他になっています。忌憚のないご意見いただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、最初に議事のいしかりファミリー・サポート・センターの現状と課題について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（若松主事）

いしかりファミリー・サポート・センターについて、簡単にご説明させていただきます。資料をご覧ください。

ファミリー・サポート・センターは、子育ての援助をしてほしい人を依頼会員と言い、その要望に応じて援助ができる人をサポート会員と言い、お互いの理解と協力の下に有償でお子さんを預かる会員組織です。

本来は有償ですが、子育てサポート事業というものがあまして、妊婦から1歳未満のお子さんがある家庭を対象に、いしかりファミリー・サポート・センターを40時間無料で利用できるスタンプカードを配布し、お子さんが0歳の期間のみ利用することができます。令和2年までは、8時間無料券配布を令和3年度4月からは40時間無料スタンプカード配布へと事業を拡大しました。

子供を預けるということに抵抗がある方もいますが、そのような方がお試しで利用したり、コロナ禍でお子さんを預けるのが難しい方、人に頼れない方、お子さんを連れて行けない場所が増えてきた

ことなどもあり、そのようなニーズに対応できればと拡大しました。

次に、ファミリー・サポート・センターの会員数、依頼会員数は表のようになっています。お子さんが中学生以上になった世帯や6カ月以上連絡がつかない世帯は自動退会となります。

令和3年度は、会員数が大幅に増えておりますが、サポート会員の方は、令和元年度からほぼ75人程度であり変わりません。依頼もするしサポートもするという両方会員は、ほぼ30人前後でこちらもあまり変わりません。このように依頼会員は増えていますが、サポート会員の人数はあまり変わらない状況です。

実働人数は、サポート会員と両方会員の中で実際に活動できる方となりますが、こちらも約20人程度で、ここ数年変わらない状況です。サポート会員の中には、高齢化やご自身が子育て中という方もいらっしゃいます。

次にファミリー・サポート・センター利用状況です。網かけになっている子育てサポート事業の利用件数ですが、令和3年度は事業を拡大しましたので大幅に増えています。表の一番上の保育預かり前後の送迎の年間利用件数が減っておりますが、40時間分の無料スタンプカードを使って利用しています。そのように見ると大幅に利用は増えています。また、上から2番目の児童クラブの送迎依頼も増えている状況です。

次の2ページ目をご覧ください。40時間の無料スタンプカードの利用状況をグラフにしています。こちらは、令和4年度7月末時点データを基に作成しています。令和4年7月の時点でカードの有効期限が満期になった方は56名おり、その中で40時間分すべて使い切った方は11名で20パーセントでした。次に、20時間以上で半分以上使った方は、26名で46パーセント。20時間未満で半分も使わなかった方は、19名で34パーセント。その中で通常のファミリー・サポート・センターの料金を支払っての利用につながった方は12名で21パーセントでした。

それらを踏まえファミリー・サポート・センターの課題を載せています。無料利用時間の事業拡大で依頼件数が増えたことにより、サポート一人当たりの稼働時数が増えています。

送迎依頼の対応では、車の運転を引き受けるサポート会員等の確保が難しくなっています。また、サポート会員養成講座を受けても自分の子育てや仕事がまだ忙しかったり、高齢化、稼働時数の増、サポート内容の幅の広がり等のことから、会員報酬の見直しや低所得者への配慮をどうするか等について検討する必要があると考えています。私からは以上です。

○吾田会長

料金に関しては、現在、市で考えている最中なんでしょうか。

○事務局（伊藤次長）

まだ料金についての議論はしていません。

○吾田会長

このような状況を踏まえて皆様からご意見ご質問ございましたらお願いします。

○坪田委員

1ページの資料の中で、子育てサポート事業利用件数に無料スタンプカードの利用は入っていますか。

○事務局（若松）

入っています。網かけになっている産前産後の預かり、送迎が無料券を利用した件数になっています。

○坪田委員

網掛けの部分は全部無料スタンプですか。

○事務局（若松）

はい。令和3年度ですと448件が全て無料スタンプカードを使用した件数です。

○坪田委員

これは、初めて使う産前産後の預かり、送迎に集中しているということですね。

○事務局（若松）

そうです。

○坪田委員

その他で無料スタンプカードは使われていますか。

○事務局（若松）

この中にもいろいろなサポートはありますが、無料券を利用した方はひとくくりにしています。

○星野委員

私からもお答えします。令和元年は61件、令和2年は46件、令和3年から無料利用券が40時間になりました。無料券は0歳までの赤ちゃんに配布されますが、赤ちゃんとその上のお子さんの預かりや上のお子さんの保育園の送迎等に利用されています。総計が953件の利用ですが、その半分くらいが無料券を利用しています。

○坪田委員

もう一点ですが、2ページ目に20時間未満の方の利用状況は出ていますが、40時間の無料券を発行した中で、一度も利用しなかったという人数は分かれますか。

○星野委員

利用された方のカウントをしています。保健推進課から母子手帳発行の際等に希望者に配布していますが、こちらでは発行数は今のところ把握していません。

○坪田委員

出生数は300人切っているので、ほぼ発行枚数は分かりそうですね。

○事務局（伊藤次長）

そうですね。

○坪田委員

では、発行枚数が分かれば、全く利用していない人の数が分かり比較できますね。

○事務局（若松）

母子手帳を配付する際に、いしかりファミリー・サポート・センターや無料カードのご案内をして、ご希望の方に登録いただき無料カードを配布していますが、希望されない方には配布していませんので、母子手帳の数イコールカードの配布数にはならないですが、今後の参考にしたいと思いません。

○吾田会長

ありがとうございます。その他ございませんか。

○坪田委員

課題にあります依頼された子どもを支援者の車に乗せて送迎する運転を引き受けるサポーターの確保についてあげていますが、児童デイなどでも子どもを載せて送迎する際の補償について問題になっています。私の聞いた児童デイの方は、事故が起きた場合、自車の保険で対応するとのことでしたが、ファミリー・サポート・センターでは、サポート会員の車での送迎の際に事故が起きた場合の補償はどのようになっていますか。

○星野委員

昨年から移動サービス専用自動車保険に加入して、サポート会員の中で送迎できる方に登録していただき送迎をお願いしています。

○坪田委員

保険の費用は、ファミリー・サポート・センターで出しているのですか。

○星野委員

はい。

○坪田委員

わかりました。

○吾田会長

ありがとうございました。プロの送迎ではないので、サポーターの方の負担も大きいですね。送迎以外でも保険は入っていますか。

○星野委員

はい。送迎以外でも保険は入っています。

○吾田会長

病気の時の預かりが減っていますね。

○星野委員

はい。コロナの関係で今は、お子さんの発熱や家族に発熱のある方がいる場合はお預かりしていません。熱が下がり鼻水が少し残っている程度や骨折などの外科的な治療を受けているお子さんの送迎等はお受けしています。

○吾田会長

本当に必要な方が利用でき、また、無料だからお母さん方がリフレッシュするために使ってみようかと繋がっていけばいいですね。運営していて何か気になることはありますか。

○星野委員

課題にもありますが、稼働できるサポーターの人数が20名で、そのほとんどの方が仕事を持っています。仕事が終わって夕方から送迎や保育をしてくださる方、ご自身の仕事のシフトを教えてくださいと仕事の間を縫ってサポートしてくださっています。

令和2年の預かり・送迎を見ていただくと303件ありますが、その中で、朝6時から夜7時までの依頼があり、そのサポートは1年1ヶ月続きました。それを4人のサポート会員で支援してきました。みなさん仕事を持っていたので、シフトを組むのも大変でしたが、皆さん、送迎のあとで仕事に行くので支障はないと言ってくださいましたが、やはり冬道は大変な緊張がありました。

令和3年の件数は少なくなりましたが、また新しい方が入ってきています。保育園へ迎えに行き、保護者が帰宅する夜9時まで預かり、同時に日中の0歳児の預かりがあると20人のサポート会員でまわすのはとても大変な状況でした。

有償ボランティアで行なっていますが、1時間の謝礼が600円なのでもう感謝しかないというところですか。皆さん、お金のためにボランティアに入っているわけではないですが、もう仕事の域に入るといふ依頼数になり、少しなら手伝ってもいいという方もいますが、ここまで来るともう苦しくなっている状況です。

○吾田会長

どのように広げていくことができるかですね。

○星野委員

無料の40時間を大事に1時間ずつ分けて使う方もいれば、きょうだいで40時間を一気に使う方も

います。初めてお会いしてお預かりすることもあり、例えば0歳と3歳のきょうだいの場合は、安全面を考慮し、サポートさん2人手配します。

○吾田会長

妊婦さん1人に40時間ですか。お子さん一人に40時間ですか。

○星野委員

双子さんですと80時間になります。無料券は0歳までなので、1歳以上のお子さんは、きょうだいとして利用しています。預かってもらうと楽なので、上手に使われる方もいます。また、無料券の期限ギリギリに駆け込みで利用される方もいます。昨年の4月から始まったのですが、1年間使われなかった方もいたので、特別措置として9月30日まで利用できるようにしました。誕生日前日めがけて駆け込みで利用した方は1日10時間利用しました。9月30日は多くの方の申し込がありましたのでサポートの手配が大変でしたが、利用したお母さんの笑顔を見ると、やはり子どもと離れてリフレッシュすることが大切と感じます。ですから、今後も極力サポーターの手配をしたいと思っています。

○吾田会長

そのご苦勞が手に取るようにわかります。ありがとうございました。

他に何かございますか。

○河岸委員

私は千歳に住んでいますが、千歳は習い事の送迎が年々増えています。石狩は習い事の送迎が0件で少ないと思いました。習い事の送迎が増えるとかかなり大変になってくるので、実働が20人では厳しいと思いました。どのようにして増やすかですね。

○星野委員

コロナ禍で養成講座ができなかった時期があり、ご家族の方が看護師で周りの罹患に配慮して退会された方もいます。資料の表の中では、サポーター会員が増えたように見えますが、子育てが終わった両方会員が移行したという現状です。

○吾田委員

ありがとうございます。他にございますか。

なければ、その他の事務局からの連絡となります。

○事務局（齊藤）

8月末をもって委員の任期につきまして、一旦終了となります。大変お世話になりありがとうございました。次期委員の一般公募につきましては、2名の方からご応募をいただきました。

次回会議は翌年1月または2月を予定しております。

○吾田会長

それでは、今日は任期最後ということですので、お一人ずつお言葉を頂戴いたします。よろしくお願ひします。

○近藤委員

この3年ほどコロナ禍で書面会議がほとんどで、あまり機能できなかったのではと個人的には感じていますが、コロナが終息して社会活動が1日も早く通常に戻ることを願っています。次期誰が出るかは別として、子ども子育て会議は市の重要なテーマでございますので、微力ではございますが今後もお役に立てればと思います。どうもありがとうございました。

○金子委員

私共は、障がい児・者関係の事業所で、自閉所や発達障がい子どもたちやグレーゾーンの子ども

たちへの対応をしているのですが、この会議に参加していろいろ考えさせられありがたかったです。

ファミリー・サポート・センターの取り組みについてお聞きしましたが、実は障がい者支援の方でも親御さんが急に倒れて入院することになった時、在宅の障がい者のお子さんをどうするかという問題がありました。平成12年頃はまだ制度があまりなく、ショートステイの入所施設くらいでした。正月ということもあって自分たちで預かろうということになり、休みを返上して何人かでシフトを組んで預かり、有償ボランティアのような形で対応しました。制度がない隙間をどう埋めるかがすごく大事なところでした。その後、平成14年にそういった制度が一部できました。ファミリー・サポート・センターの取り組みも、お金の問題というよりは、その支えがあってこそ続いていると思えました。ですから20名のサポートの方が更に増えていくためにどうしたらいいのか等、まだまだ大事なことがあるかと思って聞いておりました。

○新田委員

任期の間、そして、ファミリー・サポート・センターの取り組みのグラフを見ても特に社会的な変化が大きい時期だったと感じています。そのような中、新たな児童館もでき石狩市の取り組みが1段階上がるというところで任期が終わってしまうのだと思えました。私は花川北で不登校ひきこもり支援をしています、直接かかわっている方やご家族は、小学生から64歳ぐらいまでとなくなっています。その中で、小さい時から本人やそのご家族のサポートがあることがとても大事だと感じています。ファミリー・サポート・センター事業もさまざまな可能性があると思えますので、今後も私どもの団体としても引き続き何かできることあればさせていただきたいので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○山中委員

公募の委員として、いろいろな方から専門的な話を聞き、とてもいい経験になりました。ふれあいの杜子ども館を建てることになり、その意見交換会にも出席させてもらっていたので、実際に建物が完成し、その中でこうして話をしてるのが夢ではないかと思いつつ、胸を躍らせてここへ来ました。残念なことは、図書館関係のカウンター設置を意見交換会で要望していたのですが、それが実現できていなかったことです。実際、南線小学校は、現在700世帯程で児童数が900人と大規模ですが、学校区内に図書館関係の施設がありません。私も子どもたちも本がすごく好きですが、子どもに校区外の花川南コミセンに行っておいではと言えません。意見交換会では、貸出し用のカウンターができ、家で予約をして取り寄せることができるので楽しみだねと子どもと話していたので、その点が残念です。他にはない大型の本や布絵本等の特殊な本が沢山あるので、皆さんにもこの施設で借りて家族で本を読む機会が増えたらいいと思っています。ありがとうございました。

○河岸委員

相談を受ける中で感じていることは、最近のお母さんたちは、ますます耐性が足りないといえますか、子育ての中で我慢ができない、もう嫌だとか子供を虐待しちゃいそうとか、子どもと離れたいなど、そういう気持ちを常に持っていて、子供が可愛くていいなあとか、そういう余裕が全然無いお母さんが増えています。子育てはわずかな時間なんですけれども、そのわずかな時間を我慢できない。そうすると、保育所のニーズであるとか、ファミリー・サポート・センターのニーズがますます高まってきていると思います。早くから子どもを預けたい、一日も子どもを見ていたくないとか、そういう声も聞くので、この会議も含めて今後も活動していくことになるかと思っています。

○伊藤委員

新しい児童館ができ見学してとてもわくわくしています。児童館は全国的にも減ってきています。各地からこども未来館に見学にいらしていますが、児童館は放課後児童クラブが入っているというこ

とだけで、ほとんどの方が児童館の機能を知らなかったとお話されています。

児童館は、子どもたちが自由に來れていろいろな遊びやいろいろな体験ができる場所ですとお伝えすると、本当にその時に理解していただく大人の方々がほとんどです。石狩市は二館目の大型児童センターができ、本当に素晴らしいと思っています。いろいろな家庭状況のお子さんがありますので、児童館の機能を皆さんに知っていただいて、どんなお子さんでも遊びに來れる場所で、どこか一つでも子どもの居場所が保てるようにと、ふれあいの杜子ども館とこども未来館の定休日をずらし、子どもたちにここは空いてるよと言えるので嬉しいのです。いろいろな所で児童館ってご存じですか？と言ってまわり広報をしてますので、皆さんぜひ児童館とはこういう場所で、子どもの居場所がなかったり、お家にずっといるようなお子さんがいたら、児童館に行ったら楽しいよって言っていただけたらと思います。子ども子育て会議で私も本当にいろいろな勉強をさせていただくので嬉しく思っています。ありがとうございます。

○星野委員

私たちの団体が石狩市から委託されファミリーサポート事業の運営をしています。前市長のお宅を事務所として使用させていただいており保育室が二つあります。全国的にも本当に珍しく、どこへ行ってもすごいねと言われる環境の中、更に40時間増え、コロナ禍になり病院に受診できない、子どもの行事に参加できない、実家に帰りたくても帰れない等の方々にはいち早く対応したすばらしい事業で、どこに行っても石狩市はいいねとされています。今日内情をお話しできて良かったと思います。お母さんたちの中には預けることに抵抗のある方もたくさんいて、悪いことしてるじゃないかって思う方も中にはいます。このような場所があることを知って、預けても大丈夫と思っていただきたい。子育ては毎日のことなので、お母さんが元気になってほしいし、とても良い事業だと思っています。たくさんの方の協力で成り立っている事業なので、皆さんに知っていただいてよかったです。ありがとうございました

○坪田委員

ふれあいの杜子ども館ができ子育て支援拠点も一つ増え、また公園に隣接していて凄く素晴らしい児童館ができたと思っています。私の園でも朝から夜8時半まで受けていますが、病気になるとこども園に行けなかったり、小学校に入ると児童館が閉まるので、夜お母さんたちが帰ってくるまでの間、ファミリー・サポート・センターがその隙間を埋めてくださっていて、ありがたいと思っています。有償ボランティアの料金が600円は安すぎるかと思います。有償ボランティアさんは、夜や土曜、日曜も受けてくれるなどボランティア精神ですが、もうその域を超えているように思います。こども園のパートでも時給千円は超えていますから、ファミリー・サポート・センターも有償ボランティアではなく、組織をしっかりと構築したらいいかと思いました。

それから私どものこども園で12月から医療的ケア児を受けるということになり、痰の吸引などの医療的ケアをすることになります。研修も受けるのですが、そのようなお子さんを今後ファミリー・サポート・センターでも受け入れるとなると更に責任が重い状態になり難しいだろうと思いました。

○事部局（伊藤次長）

改めて2年半ぶりの開催で皆さんの生の声を聞き、どの方のご意見も今後石狩市の子ども子育て環境を支えていく必要な内容で、この2年半、書面でしか開催できなかったことが本当に悔やまれ残念だと思っています。今回は今期最後の会議となりましたが、今後はコロナ禍もありますができる限りお集まりいただいて、それぞれの生の声を聞かせていただきたいと強く思っています。それからファミリー・サポート・センターについては、星野委員から現状と課題をお話いただき、確かに料金設定の問題が1つありますが、管内や他市の状況などを考慮していかなければならないことや利用する側

の負担も考えながら料金設定をどう考えていくか、上げる方向で考えていくべきなのか据え置きがいいのか、その辺が今悩ましいところでもあります。また、もう1つはサポート会員数です。今どこの分野においても人を集めることが大変な時代の中で、このように有償ボランティアでやっていただける方を拡大、確保していくことが本当に難しいところで、ぼけっとままさんも大変苦勞されております。養成講座等も実施しておりますが、その中で稼働に結びつく方が一握りしかいない状況の中で、対応策が難しいところもあるのですが、ファミリー・サポート・センターのニーズは広がっていますし、40時間に広げ利用したい方がたくさんいる中、どういう運用をしたら本当に必要な人に届いて、更にサポート会員の負担を減らしながら持続可能な制度にしていけるのかを考えていかなければならないので、本日のご意見を踏まえて事務局としては、できれば次の会議の中で方向性を示せればと思っています。

次回の会議までしばらく空き変わられる委員もいらっしゃるかと思いますが、今回の件についてご意見があればメール等でお寄せいただければありがたいです。

○吾田会長

皆さん貴重なご意見いただきましてありがとうございます。ここには見えませんが、私たちの真ん中には、お子さんと子育て中の方そうではないたくさんの方たちがいる中で、そこをどのように繋いでいけるかということが私たちの役割かと思っています。

藤女子大学の図書館でも石狩市民の方たちやお子さんたちが本を借りることができます。社会福祉系や教育や保育系、食物栄養学科があるのでそのような専門的な書籍もたくさんあります。石狩の情報をもっと把握していきたいと思います。先日、厚田に行ってきましたが、景色が悠大でいろいろな可能性に溢れてる街かなと思いましたし、子どもの居場所のことは、ここでしっかり考えていかなければならないと思います。ファミリー・サポート・センターの料金が安すぎるというご意見がありましたが、プロを養成し命を預かる立場として、お子さんを預かる有償ボランティアのことはどうなんだろうと痛し痒しだと思いますが、子どもたちの為にやりたいことがいっぱいあるけれど、根本的なところを考えていく必要があると思いました。共に考え合える皆さんがここにいることや新たな方が増え石狩市全体が豊かになっていくことが近道なのかなと思いました。ぜひ広報などでファミリー・サポート・センターや有償ボランティアの方の声、サポートを受けた方からの声を市民の皆さんに知っていただいたり、不登校の方や障がいの方たち、その方たちにかかわっている方々の声を拾っていくことが大事なことなのだと聞かせていただきました。私も一番勉強させていただいたかなと思ってます。本当に書面会議が多かったですが、コロナに負けずにこれからも置かれた場で大切なお仕事なさっていただければと思っています。今日の議題はこれで終了いたします。お疲れさまでした。

○事務局（伊藤次長）

これももちまして、本日の子ども・子育て会議を終了いたします。ありがとうございます。

令和4年8月31日 議事録確定

石狩市子ども・子育て会議

会長 吾田 富士子